

[第32回]

AsahiKASEI  
旭化成エンジニアリング

# 旭化成エンジニアリング株式会社

代表取締役社長 **岡田 一郎** 氏

## まじめにエンジニアリング ～お客様が本当に必要なエンジニアリングを提供します～

旭化成エンジニアリング株式会社は、1972年2月に、旭化成株式会社（以下「旭化成」）の生産設備の保全業務などを行う「旭エンジニアリング株式会社」として設立され、その後旭化成グループの生産技術組織の再編を経て、2004年10月に現在の社名である「旭化成エンジニアリング株式会社」となりました。

旭化成グループは、ケミカル、繊維、医薬・医療、住宅・建材、エレクトロニクスなど多角的な事業フィールドでビジネスを展開されておられます。旭化成エンジニアリング株式会社は、同グループ内において、長年、設計・建設・保全・生産管理などの業務に携わってこられ、蓄積されたエンジニアリング力を活かして製造業を中心としたお客様のニーズに対応し、課題解決に貢献されています。

「お客様の現場と業務を理解する能力に秀でたエンジニアが創り出す、単なる技術力ではない、お客様が本当に必要なエンジニアリングをご提供できる」とは、具体的にどのようなことか？

今回のインタビューでは、ユーザー系エンジニアリング会社である旭化成エンジニアリング株式会社の強みを生かした同社の事業戦略について、代表取締役社長の岡田一郎様に詳しく語っていただきました。

### ユーザー系エンジニアリング 会社の強みを 最大限に生かす

— 始めに、旭化成グループにおける御社の位置づけをお教えてください。併せて、グループ内とグループ外のお仕事の比率といったものもお教えてください。

**岡田** 当社は、「旭エンジニアリング株式会社」として1972年2月に設立され、2022年2月に50周年を迎えました。設立当初は、旭化成の生産設備の保全や工場建設への対応が主要業務でした。旭化成グループをとりまく事業環境の変化に対し旭化成の生産技術本部と当社の役割分担が逐次見直されてきました。

2023年度に旭化成グループ内での当社のミッションを再定義し、従来「自主自立」を基本としていたものを、「互恵関係」を基本とした旭化成の『戦略的な





パートナー』と位置付けました。より具体的に申し上げれば、当社は、旭化成の生産技術の向上のために生産技術本部と一体となって、旭化成グループに貢献することが求められています。ユーザー系エンジニアリング会社としての強みを生かし、現場に密着して対応することで信頼を獲得することにつなげていきたいと考えています。EPC事業に関しては、旭化成グループの建設案件に責任をもって対応することで貢献をしています。建設工事においては安全と品質の確保は当然ですが、当社が旭化成グループの建設案件で元請になることで下請企業に対して旭化成グループの工事安全基準を指導し、より高いレベルの安全管理および品質を担保しています。

— それでは、旭化成グループ外のお客様に対してはどのように取り組まれていますか。

**岡田** 旭化成グループ外のお客様に対しては、旭化成グループ内の仕事で培った知識、経験、ノウハウを使って、同業他社より優位差のあるサービスを提供できると考えており、まずは、当社の得意分野及び認知されている分野に注力する、という方針で臨んでおります。また、我々の技術レベルを高めるために、世の中の先端技術をキャッチアップして、我々のポジションを常にベンチ

マークしておくことを意識しています。

なお、旭化成グループの仕事の割合ですが、その時々旭化成グループの仕事量によって左右されますが、近年は旭化成グループの設備投資が旺盛であったため2022年度は、グループ内の仕事の比率は約80%でした。

### 旭化成グループ内のものづくりをサポートする

— 御社のWEBサイトを見ると、EPC事業だけではなく、様々な製品やサービスを提供されていることが分かりました。ものづくりにおいて旭化成グループへの貢献はどのようにお考えですか。

**岡田** 旭化成グループのものづくりを支えることが当社の重要なミッションの一つです。

まず、旭化成グループのものづくりにおいて重要なことは、「キーとなる技術は社内でも保有しておく」ことです。

「主要な機器の内製化」とBCPに対応できるよう安定的な製作体制を確保・維持することが当社の使命であると考えています。

### お客様の製造設備などの安定運転に貢献する製品・サービスを提供

— 御社のWEBサイトには、機器保全や検査診断等に関する様々な商品やサービスのご紹介があります。紙面の都合上、全てをご説明いただくわけにはいかないのですが、いくつか特徴的なものをご説明いただけますか。

**岡田** 当社では、生産工程管理や機器保全において、効率のかつ安全、安心、安定的な運転の実現に貢献できる技術、製品・サービスがあります。

まず、「回転機器の設備診断」技術ですが、回転機器の異常を検知するため

には、常時回転機器の振動を監視する振動計が必要です。当社では、用途に応じて様々な振動計をMDシリーズとして販売しています。通常、振動計は回転機器等に直接取り付け計測しますが、水中等の環境にある機器には取り付けられないため超音波の音響診断技術を活用し、回転機器の異常振動を検知できる非接触型の振動計測の仕組みの開発も進めています。

また、株式会社商船三井様と共同で「船用モーターの状態監視システム」を開発し、「V-MO」というサービス提供を開始しました。これは、船舶に搭載されているモーターに振動センサーを設置し、計測データを衛星経由で送信・分析することにより、モーターの状況を常時監視することができるシステムです。航海中の大型船舶（コンテナ船等）の故障予兆を捉えて、故障を未然に防ぐシステムと申し上げたらわかりやすいでしょうか。

次の事例は、計画保全支援ツールTMQです。これは、旭化成で培った設備保全管理ノウハウを投入した計画保全支援システムで、設備保全作業の長期計画化と結果の分析・評価により予防保全を追求するものです。生産現場にある主要な機器について、定期的な検査結果やメンテナンス状況などの記録を蓄積することにより、機器の重要度やコンディションに応じて、交換時期などを管理するツールです。

また、電気設備の診断技術も当社の有力な商品です。例えば、高圧ケーブル活線診断装置（LINDAシリーズ）があります。これは、200以上のお客様の事業所における特別高圧、高圧受電設備で採用いただいている絶縁監視装置です。高圧ケーブルの検査は、一度電気を切って離線して絶縁抵抗を測定するのが一般的ですが、この装置を使えば、活線した状態で検査することが可能となり、定期修繕の手間が大幅に削減できます。

防爆技術ソリューションも、当社の誇る商品です。危険物を取り扱うエリアでは火花が飛べば、爆発事故につながるため防爆対応機器が必要となります。そのような環境下で製造データを自動で

記録するために、当社では防爆形タッチパネルや、防爆形無線LANシステムでプラント操業支援をしております。

以上申し上げたような製品やサービスは、個々に見れば類似の製品やサービスを提供する企業もあるかと思えます。しかし、生産工程管理、機器保全、電気設備診断といったお客様のニーズに対して、一括して適切な解決策をご提供できるのは、当社において他にない、と自負しております。

### 将来目指す姿 ～プラントに関する 総合サービス業～

— 御社の製品・サービスの強みについてお話を伺ってきましたが、御社の将来像について、お話を聞かせてください。

**岡田** 現在、当社は環境技術・モノづくりなどを担う「プラントC&M事業部」と、電気技術・デジタル技術・計装制御技術などを担う「EICソリューション事業部」の二事業部制となっており、建設、メンテナンス、新規事業などは、両事業部が協力して行う体制となっています。将来的には、モノづくりを含む建設領域、メンテナンス・ソリューション領域、情報・DX領域を三本柱とする「プラントに関する総合サービス業」を目指しています。

事業領域ごとに考えると、国内におけるEPC事業は減少していくと予想していますが、海外の案件について我々が如何にしていくべきかを考えることが今後の課題です。また、水素を始めとする新エネルギー関係の仕事は今後増えていくと考えています。当社は、旭化成と協力して、福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）向けに、世界最大規模の10MW級大型アルカリ水電解システムを立ち上げた実績を有しております。今後こうした経験を生かして、成長が期待される新エネルギー分野などにおいて、新規事業を立ち上げていきたいと考えています。



旭化成エンジニアリングの目指す姿（基本コンセプト）

### 社内では、 社長も「さん」づけ

— ここで御社の社風や人財育成の手法について、お伺いしたいと思います。就職に関するWEBサイトで調べたところ、旭化成グループは、上下関係が自由だ、という投稿がありました。

**岡田** 当社に限らず、旭化成グループでは、「さん」づけ文化に代表される上下関係に関わらず自由にものを言える社

風があると思います。当社に入りたての新入社員も、私のことを「岡田社長」とは呼ばず「岡田さん」と呼びます。

「さん」づけに代表される自由闊達な社風が旭化成グループの風土であり、仕事の任せ方にもそれが表れています。若い人に積極的にある程度の領域の仕事の思い切って任せています。

「若手社員は失敗することによって成長する」ということを理解して、人材を育てようとしています。

私自身、様々な仕事を経験していく中で、育ってきたと思っています。



岡田 一郎（おかだ いちろう）

1964年大阪府に生まれる。  
1989年旭化成工業株式会社（現旭化成株式会社）入社。  
2015年旭化成株式会社生産技術本部エンジニアリングセンター富士エンジニアリング部長、2018年同社生産技術本部設備技術センター延岡設備技術総部長、2020年旭化成エンジニアリング株式会社取締役兼任、2020年10月旭化成エンジニアリング株式会社代表取締役社長就任（現職）、2023年旭化成株式会社上席理事に就任、現在に至る。

旭化成に入社して、まず装置の開発を担当した後、生産技術開発（収率・品質改善、設備設計、工場建設等）に二十数年間携わりました。その後、更に設備技術（保全）の仕事を経験いたしました。私自身、いろいろな仕事を経験することは大変でしたが、自分にとってプラスとなっていますので、若い人達にも同様の経験をさせてあげたいと考えています。

— 御社は、EPC事業のみならず様々な事業領域をお持ちであり、多種多様な仕事を経験できる職場であると言えますね。ところで、今まで様々なお仕事をされてこられた中で、「これは誇れる仕事だ」と思われるのはどのようなものですか。また、社長になられて意識していることはありますか。

**岡田** 今まで自分が開発した生産技術・装置が現在も工場で実際に働いているのを見ると、感慨深いものがあります。例えば、引火爆発の危険性をな

くすための自動化装置の開発や膜分離技術を使った蒸留装置といったものです。組織を預かる立場になってからはひとりひとりがイキイキワクワク活躍できるように組織の活性化を常に意識しています。

### 座右の銘は「有言実行」

— 座右の銘といったものはお持ちですか。

**岡田** そういう大それたものはないですけれど、私は言ったことを必ずやると言っています。逆に言えば、できないことは言わない、ということです。したがって、「座右の銘は？」と聞かれたら、「有言実行」と答えています。

— 本日は、お忙しいところ、大変ありがとうございました。



### インタビュー後記

旭化成エンジニアリング株式会社のWEBサイトをインタビュー前に拝見したところ、同社の保有する様々な技術の内容が詳細に書かれており、正直言って、「私に分かるだろうか」と不安でした。しかし、岡田様は、私が事前にお送りした質問事項に対して、詳細な資料を準備していただき、岡田様の説明と相まって素人の私にも理解できるところが多くありました。

また、中期経営計画を作成する際に、岡田様ご自身がおつくりになられた「旭化成エンジニアリングの目指す姿（基本コンセプト）」は、今後の事業変化に合わせて同社の強みである技術力を強化し、社会に貢献するとともに社員の幸福を実現する、という岡田様のお考えが、一枚の絵でわかるものであり、大変に素晴らしい、と感じ入った次第です。

聞き手：当協会専務理事  
前野 陽一



### 企業データ

社 名：旭化成エンジニアリング株式会社  
 事業内容：プラントエンジニアリング、プラントライフサービス、電気・情報・通信・制御ソリューション・シミュレーション&最適設計  
 設 立：1972年2月  
 所 在 地：神奈川県川崎市川崎区日進町1-14 JMFビル川崎01 6階  
 従業員数：502名(2023年12月現在)  
 ホームページ：<https://www.asahi-kasei.co.jp/aec/>

